

ボッチャ通じて 発達障害を学ぶ

豊橋で考える催し

講義やゲームを通して発達障害について親子で考える催しが十九日、豊橋市障害者福祉会館さくらピア（同市東新町）で開かれた。障害者、健常者の子どもたちとその家族、約三十人が参加し、発達障害への理解を深めた。



ボッチャを楽しむ参加者＝豊橋市東新町の市障害者福祉会館さくらピアで

さくらピアが毎年夏に企画し、今年で五回目。二部構成で、前半は発達障害の子どもを持つ親の会「ささゆりの会」の荒川千秋さん

による講義があった。荒川さんは子どもたちに得意なこと、苦手なことを質問。その上で「発達障害は、みんなと同じように得意不得意があつて、その差が大きだけ。得意な人が苦手な人を補い、助け合つてほし

い」と話した。

後半は、東京パラリンピックの正式種目でもあるボッチャの体験教室を実施。子どもたちは、白いジャックボール（目標球）に自分のボールを近づけようと真剣にプレー。障害者、健常者の子どもたちが互いに「惜しい惜しい」「ナイスショット」と声援を送り合つた。

小学四年の高木紗愛さん（九）＝同市牛川町＝は「楽しかったので来年もやりたい」と笑顔。母の真由子さんは「このように交流する機会はありませんので、子どもにとってもいい機会になった」と話した。

（斎藤徹）